

令和2年度第2回遠野市総合計画審議会

— 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 令和2年8月6日(木)午後1時30分～午後4時05分
- 2 場所 あえりあ遠野 交流ホール さくら・もみじ
- 3 出席者

(1) 委員

会長	及川 増徳	一般財団法人遠野市教育文化振興財団理事長
副会長	新里 佳子	TKプロジェクト実行委員会監事
委員	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
委員	松田 克之	遠野市消防団団長
委員	千葉 和	NPO法人遠野エコネット代表
委員	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会会長
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	佐藤 正市	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会委員
委員	井手八重子	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長
委員	三浦 芳昌	遠野市観光協会会長
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	小向 敏夫	遠野市校長会会長
委員	藤山重理子	遠野市PTA連合会監事
委員	赤坂 康紀	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	内館 充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	佐々木栄洋	地域づくり団体
委員	佐々木浩章	遠野テレビ
委員	沼 徳之	遠野ひまわり基金法律事務所弁護士
代理	菅原 智明	県南広域振興局企画推進課特命課長
代理	安達 直哉	遠野市金融団
欠席	小笠原正剛	一般社団法人遠野青年会議所理事長

(2) 遠野市

市長	本田 敏秋
副市長	飛内 雅之
教育長	菊池 広親
総務企画部長	鈴木 英呂
経営管理担当部長	菊池 享
健康福祉部長	菊池 寿
子育て応援部長	佐々木一富
産業部長	中村 光一
プロジェクト担当部長	阿部 順郎
環境整備部長	奥寺 国博
市民センター所長	小向 浩人
文化振興担当部長	石田 久男

消防本部消防長	三松	丈宏
教育部長	伊藤	貴行
会計管理者	鈴木	純子
総務企画部総務課長	白岩	克己
総務企画部財政担当課長	海老	寿子
総務企画部政策担当課長	新田	正宏
総務企画部政策担当	箱石	奈央・佐々木利幸・阿部 隼人

(議事概要)

1 開会

○鈴木総務企画部長

ただいまから、令和2年度第2回遠野市総合計画審議会を開会いたします。私は司会の総務企画部長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

本審議会の委員には、各団体より推薦のあった皆様に委員をお願いしておりますが、役員改選により新たに変更がありましたのでご紹介します。遠野市郷土芸能協議会、赤坂康紀様です。

○赤坂康紀委員

赤坂です。よろしくお願いいたします。

○鈴木総務企画部長

赤坂委員には、前任であります佐々木國允様の後任として、令和5年4月30日までの任期をお願いすることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。なお、時間の都合上、お手元に辞令書を配付させていただいておりますので、ご了承願います。

2 市長あいさつ

○鈴木総務企画部長

ここで、主催者であります遠野市長よりご挨拶を申し上げます。

○本田市長

第2回の総合計画審議会ということで、何かとご予定があったことと思うが、このようにご出席いただいたことに心より感謝申し上げます。日頃から、遠野市政の課題に、それぞれの立場からしっかりと向き合っている皆さまに、心より感謝と御礼を申し上げます。

今、特定検診が中ホールで行われており、様子を覗いてみた。徹底した感染予防対策に取り組みながら、市民の健康を守ろうということで、スタッフが対応していた。これからの感染予防の対応としては、基本に忠実ということが大切であると改めて感じたところである。お盆を控え、拡大拡散の第2波といわれている。そして、お盆の帰省をどうするかといった問題が、国レベルでも大変な議論になっている。おじいちゃん、おばあちゃんのところに帰るなということが、テレビ、新聞等を通じて話題になっている。新型コロナウイルスがもたらした大変な時代が来ているのではないかとということ、その中から感じ取ることができる。それぞれの立場で、基本に忠実に、予防徹底、拡散対策にご協力とご支援をお願い申し上げたい。

新型コロナウイルス感染症において、先般の30日に臨時会を開催した。約4時間にわたって審査をいただき、全会一致で可決承認をいただいた。地方創生臨時交付金を活用し3億9,400万円の予算を計上し可決をいただいた。内訳は、感染拡大防止対策は9事業1億9,800万円ほど予算化をした。さらには、社会経済対策として11事業、1億9,600万円を予算化し可決をいただいたことから、直ちに実行に移す方向で取り組んでいることをご報告申し上げます。

さらには、4月28日に臨時議会を開いて1号補正を、6月市議会で2号補正、7月30日には3号補正で対応しているところである。3号補正まで合わせると、32億3,700万円ほどの予算規模となる。内訳は、予防防止対策事業に15事業、2億4,200万円ほどを予算化。社会経済対策については、33事業、約29億9,500万円という規模になっている。社会経済対策の29億円については、特別定額給付金、一律10万円というものも入っている。特別定額給付金は、遠野市に26億円ほどが給付になっている。26億円の特別定額給付金が、しっかりと社会経済対策につながるようなそのような

取組をしなければならないと思っている。例えば、すずらん振興協同組合では、懸命に地元消費の拡大をということで取り組んでいるところで、それをしっかり生かそうという取組が見えるところであり、そのことを報告申し上げる。

去る4日に、県の教育委員会から電話が入った。県議会常任委員会の文教委員会の席上で、説明の方針を示しましたという連絡であった。その連絡の内容は、県立高校再編統合計画において、遠野高校と遠野緑峰高校を、遠野市にあっては1校体制にするという方針が前期計画に示されていたが、先送りとなっていた。多くの皆様のご支援のおかげで、県に想いが通じ、遠野高校、遠野緑峰高校の2校体制を存続し、再編計画から除外するということが正式に示された。この場をお借りして、市民一丸となって取り組んでいただいた皆さんに感謝と御礼を申し上げる。

地方創生という流れの中で、少子高齢化、人口減少にどう立ち向かうかが大きな課題となっている。それにどの様に立ち向かうかという様々な取組についても、本日も説明申し上げます。高校生諸君とタッグを組みながら、遠野の底力というものを県に受け止めてもらった。正式な連絡を受けたことを申し上げ、お礼を申し上げます。さらなる魅力のある高校をそれぞれの立場で支えていただくよう、よろしく願い申し上げます。

高校生は大変な力を持っている。この7月に市長と語ろう会を4回開催した。市内の高校2校を訪問し高校生と意見交換した。平成15年に生まれた子ども達から、厳しく遠野の現状をみて、建設的な意見をいただいた。とても頼もしく思い、そういった高校生とタッグを組み、人口減少に立ち向かうことを、心強いものを得たということを上申する。

3 会長あいさつ

○鈴木総務企画部長

続いて、本審議会の会長であります、及川会長よりご挨拶をお願いします。

○及川増徳会長

ただいま市長から報告があった、市内の高校2校が存続されるという報告を受けて、市民会議の構成メンバーの一人として、大変うれしく思っている。市民協働、総合計画の基本理念である遠野スタイルが実を結んだと言える。当時、総合計画審議会でも、2校存続するべきだという意見集約を受け、市民会議を立ち上げてきたことを思い出す。関係者のご尽力の賜物で、こういう結果につながったことをうれしく思っている。

審議会にあたり事前に資料が送付された。様々な地域課題に取り組んでいる。資料も分かりやすく、精度の高さを感じたところ。これらの資料について説明を受けたうえで、次第6番の審議を座長として進めていきたい。計画も、市民協働で作る計画という策定の方針があるので、本日は委員の皆さんから意見を出していただくような進行に努めたい。順に発言を求めるようにしていきたい。限られた時間にはなるが、市民の意見を計画に反映させる計画づくりである。そのように進めていきたいと思うので、よろしく願います。

4 委員及び職員照会

○鈴木総務企画部長

出席者報告及び本日の日程について、説明いたします。

本日の委員の出席については、委員25名中、代理出席を含めまして、24名の委員に出席いただいております。欠席は、14番、一般社団法人遠野青年会議所 小笠原正剛委員です。また、代理出席については、20番、県南広域振興局 佐々木亨委員に代わりまして、企画推進課 菅原智明様に出席いただいております。また23番、遠野市金融団 備前修委員に代わりまして、安達直哉様にご出席いただいております。

なお、市の出席者については、別添資料の座席表に記載されておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、本日の配布資料について説明いたします。

※配布資料の確認。

続きまして、本日の会議日程について説明いたします。

※会議日程の説明。

5 報告

○鈴木総務企画部長

次第5「報告」に入ります。ここからの進行は、及川会長にお願いします。

○及川増徳会長

それでは、「報告」に入ります。報告は3件ありますので、3件を一括して説明していただいた後に、一括して質問と意見を受けることとします。事務局からの説明をお願いします。

○報告

1 令和2年度主要な施策の取組状況について

菊池経営管理担当部長、阿部プロジェクト担当部長、鈴木総務企画部長、伊藤教育部長説明

2 令和2年度岩手県知事への要望概要について

新田政策担当課長説明

3 新エネルギービジョンの中間検証について

新田政策担当課長説明

○及川増徳会長

事務局から3点について説明をいただいた。委員の皆さんからご質問かご意見をお願いします。

○三浦芳昌委員

7月21日に臨時の観光推進協議会の総会を開催して、新たに会長を仰せつかった。前会長からは官から民へということで、民間感覚で進めるようにと引き継いでいるので、よろしく願います。「遠野で泊まって応援クーポン」を実施している。一人当たり2千円の割引を9月30日までの第1期とし、約20軒の宿泊施設で使える。県を出している割引クーポンも併用して使える。市民はもちろん、市外、県外の方も使えることとしている。7月分の実績はまだまとまっていないが、できれば12月も第2期ということで取り組んでいきたい。飲んだときなど、このクーポンを利用して泊まっていただきたい。家族5人でも、みんな分使えるようにしている。仕事で来た方にも、家族で使う方にも、2、3回と繰り返し使えるようにしているのでよろしく願います。観光施設の割引券も付く。8月からは飲食の割引も予定していたが、ソーシャルディスタンスを図れない店もあるので、いろいろ考えながら対応していきたい。市長が良く言う、打って出る、迎え撃つ気概でやっていきたい。意見というかPRということで、10月以降も皆さんの意見をいただきながら新たな事業を進め行きたい。

○及川増徳会長

新たに観光推進協議会の会長となった三浦委員から、事業のPRでした。その他にご質問等ございませんか。

○千葉和委員

2点について質問させていただく。

1点目は、将来的な観光組織体制の方向性について、取組状況のDMOの説明について分からない部分があるので教えて欲しい。地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的なアプローチを取り入れた観光地域づくりを行う観光かじ取り役とあるが、科学的なというのはどういう意味なのか分からない。

2点目は県への統一要望の中で、要望は終わっているが、私も山の方に住んでいるので、鹿の被害については大変な問題だと思っている。これまでのやり方ではどうしようもない。根本的に考えなければ大変だと思っている。県によっては、犬の猟を認めているところもあると聞いている。色々な対策も考えているのだろうが、岩手県として犬の猟が解禁できないか。

また、獲った鹿の処理については、食用には放射能の関係でできないと聞いているが、大槌町では全頭検査をして食用にすると聞いた。そういうことを考えないと、モチベーションが上がらない。攻めの姿勢で産業化する形で取り込まないと、鹿は右肩上がりが増えてしまうので、力を入れていただきたいという意見です。

○及川増徳会長

その他にご質問等ございませんか。

○佐々木弘志委員

2点について質問。

1点目は、新型コロナウイルスの検査センターができたが、検査にかかる費用について、負担がどうなっているのか。

2点目は14ページにファンドの事例があるが、設立してから5、6年経っているが、状況がどうなっているか分かる範囲で教えて欲しい。

○及川増徳会長

2名の委員からの質問・意見について、事務局から回答をお願いします。

○阿部プロジェクト担当部長

千葉和委員のご質問にお答えする。科学的なアプローチについては、コンセプトを決める。対象者を決める。そして、一つの仮説を作る。そして動かしてみた結果、それが実証できるかどうか評価する。そして、間違いなく上手くいくとなった場合にその事業を拡大するというので、仮説、実証、検証、拡大というのが、科学的思考と聞いている。

佐々木弘志委員のご質問について、小浜市の事例しか情報を持ち合わせていないが、小浜市の事例では、平成27年からファンドが入った。その翌年には観光入込数が30万人増となり、160万人が190万人になったと資料には記載されている。ただし、京都の縦貫道が全通したのも同じ年ということで、その辺のデータは今後も検証する必要があると思っている。

なお観光客のうち、宿泊人数はほぼ前年から横ばい。入込数が増えているが、宿泊数は伸びていないということが、資料からは読み取れた部分となる。

○中村産業部長

他県では犬を使った猟が認められているということであるが、岩手県ではそういった話は聞いていない。事務レベルで聞いた感じでは、平成26年に生息数調査がされている。今後、センサー等を使って全頭検査をし、何頭いるかという実態を把握した上で対策をしたいと聞いている。

捕獲した鹿の利用については、大槌町で放射能の検査を行って食肉処理している。遠野市でも内部で協議をした経緯はあるが、費用に係るということもあり、すぐに実施できるという状況にはない。

捕獲活動については、捕獲応援隊も100人を超え、活動を活発化している。わな等も増やして、少しでも駆除を進めていきたい。

○菊池健康福祉部長

検査センターのPCR検査の自己負担について、検査費用は1件につき18,000円程かかるが、自己負担なしで保険適用となる。ただし、検査前に診察を受けることになり、初診料について3割負担で860円に係る仕組みとなっている。

○及川増徳会長

鹿の対策については、遠野は県内でも頑張っている状況にあるが、増えている実態もあるので、改めて取組を検討してもらいたい。他になければ、報告事項については以上とします。

6 審議

○及川増徳会長

それでは次第6「審議」に入ります。

審議事項は2件ありますが、それぞれ関連性がありますので、一括して説明をしていただいた後に、委員の皆さんからの質疑の時間とします。

それでは、事務局から一括して説明をお願いします。

○審議

- 1 まちづくり指標令和元年度実績について
新田政策担当課長説明
- 2 重要業績成果指標（KPI）令和元年度実績について
新田政策担当課長説明

○及川増徳会長

忌憚のないご意見をいただき、よりよい計画づくりに反映させる趣旨から、積極的な発言をいただければと思う。3人ぐらい順に質問を受けながら市に回答してもらおう形で進めたい。質問し

たい事項について、同様の事項の質問を考えている方は、関連する形で発言する形でお願いしたい。

なお、終了予定は午後3時半としているが、それを過ぎると都合がつかないという場合などは、退席していただいて結構ですので、よろしくお願いします。

○小向敏夫委員

ファンタジーのところで、未達成になっているが、去年は結構お客さんも入り、内容も良かったと感じた。その後に非常事態宣言が出たので、ファンタジーができて良かったと感じたが、評価が未達成でびっくりしているところ。

○藤山重理子委員

意見ですが、審議資料1-2の項目No. 48の妊娠出産について満足している者の割合が、かなり高い数字で達成となっている。子育てをしている方が満足している事業については、是非継続していただきたいと思う。

○赤坂康紀委員

特にありません。

○内館充幸委員

本日、河川清掃の実績報告をしてきた。説明の中でも高齢者の話があったが、うちの地区でも参加者は多いが、女性、高齢者が多い。75歳未満は免除等の措置はとっているが、初音橋から、稲荷下の踏切付近まで1.2kmほどある。住宅が控えていることから、土木、市にお願いしたところだが、それは対応しきれないということで、右岸はやるが住宅側の左岸は全部草を刈っている。年に2回ぐらい対応しているが、土木でできないなら、市の方で応分の助成をお願いしたい。

○及川増徳会長

では、3名の委員からのご質問・意見等ありました。事務局の方で回答をお願いします。

○小向市民センター所長

遠野物語ファンタジーは、第45回ということで盛大に開催することができた。開催日が1週間ずれば、ファンタジーができたのかというタイミングであった。開催できてよかった。

未達成となっているのは、高い目標値を掲げているので未達成となっている。ファンタジーの鑑賞者数は伸びを見せている。ただ、芸術文化事業の開催回数そのものが減っていること、市民芸術祭の鑑賞者が減っているなど、全体として減となった。潤いのある生活のために、芸術文化の充実を目指していきたい。

○佐々木子育て応援部長

藤山委員のご意見について、妊娠出産について満足している者の割合は、妊娠、出産については、遠野市では受け皿となる医療機関がない中で、いろいろケアをしている。寄り添った形で取り組むことを意識している。出産後のアンケートはそのような評価をいただいているが、その後の育児も継続してやれるよう構築していければと思っている。

○奥寺環境整備部部长

河川清掃についてご回答申し上げます。

地区によっては、高齢者、ご婦人の方が多くなり、75歳以上を免除の取り扱いにしている自治会が多いというのも聞いている。

草刈りをするエリアについては、遠野町の区長会で目標値として調整された内容である。報告を見ると、予定通り行ったところ、見合わせたところがあることから、全体を見ながら、県、市と調整することになる。自治会にお話ししているのは、無理なくできる範囲でということをお願いしている。機械を持っているところはやり切っているが、街中は農家が少ないので機械が無く、手作業で大変だということを知っている。

○内館充幸委員

説明は分かりましたが、住宅側は両面を3回ぐらい刈っている。土木では何もできないということであったので、市の方で支援をいただきたいという趣旨である。

○奥寺環境整備部部长

市営住宅側については、環境課や建設課の関係から調整をさせていただきたい。

○海老糸子委員

No36のシルバー人材センターのところですが、未達成となっていますが、最後の方で、今後も

補助金を交付することにより、働く意欲のある高齢者を会員に取り込み、新規受託事業の拡大の支援を行っていきとあります。新規の受託事業とはどういうことかお聞きしたい。

○菅原智明（代理）

代理出席ということで、発言は控えさせていただきます。

○安達直哉（代理）

代理出席ですが、発言させていただきます。

森林整備面積のところで、間伐事業者が足りないという話があった。担い手に問題があるのかなとか、事業の承継といった目線も必要なのかなと思いつつ話を伺っていた。最近、隣接市町村で製材業の破綻もあった。新型コロナウイルスの影響で、流通量とかどうなっていくのか分からない部分もあるが、厳しい状況が続くのではと思う。遠野という地域において林業は重要な産業であると思うので、森林のくに遠野共同機構の役割を高めていければと思う。意見として述べさせてもらおう。

○沼徳之委員

目標未達成のものについて、コロナの影響ということが書かれているものがあるが、コロナの影響は1～3月ということなのでしょう。果たしてどの程度コロナの影響があったのか。遠野の1～3月の観光に与える影響は、あまり大きくないのではと思う。芸術文化のところで、ファンタジーは成功したが、他の参加者の関係で全体的には年々下がっているといった的確な回答があったが、観光について、新型コロナウイルスの影響の検証はどの程度しているのか。

○菊池健康福祉部長

海老委員から質問のあった、シルバー人材センターの就業のべ人員について回答します。就業延べ人員が未達成となったことについて、令和元年度の目標値が18,000日となっていますが、計画を策定した平成27年度において、シルバー人材センターの5か年計画があり、それに合わせた高め目標値となっている。雇用形態が変わり、有料職業紹介とか、労働者派遣事業に変わった部分がある。そうすると、遠野市シルバー人材センターに登録ではなく、岩手県シルバー人材センターへの登録になってしまうということがある。具体の事例としては市役所の日直であるとか、文書配達なども派遣事業になるということで、そういった制度の改正もあって実績の落ち込みがある。

補助金を活用して、会員の増と新規の受託事業を増やすということについては、シルバー人材センターに作業を頼む委託事業について、積極的に募集するなど、PRを含めてお願いしている。遠野テレビで、会員の募集と合わせて受注のお願いをしているところである。はっきりこういった事業というものがあるわけではないが、シルバー人材センターと共同で受託事業を見つけていく考えである。

○中村産業部長

安達委員からご質問にあった、森林整備面積が目標に達しないことについては、間伐事業者の経営体が少ないということがあります。山の状況を見ながら間伐を行える事業者は、市内では1社しか思い浮かばない。そのため森林整備面積を目標に届かせるのは厳しい状況にある。

新型コロナウイルスの影響で、木材の流通も滞っていて厳しい状況にあるのではというご意見でしたが、その通りです。先日、木工団地内のある事業者を訪問したとき、仕事が少なく、休みを週4日にしたり、雇用調整助成金を申請したりといったような話があり、コロナの影響はあるようだ。ただ、ウイズコロナの生活が広まってくれば、いずれは回復してくると思われる。森林管理制度の中で、森林環境譲与税という財源が来ているので、市の方で私有林を管理し、地域林政アドバイザーの人材も入れて、山を維持管理する制度があるので、その制度を利用しながら、山の適正維持に努めてきたい。

沼委員のご意見の、観光へのコロナの影響については、遠野市への観光客の流入の多くは、夏から秋で、冬が少ないのは確かである。ただし、遠野冬まつりということで、どべこ祭りや町家のひなまつり、御朱印などの新しい企画もありましたので、それらについては影響を受けて、観光客が下がっている面がある。

○佐々木浩章委員

空き店舗利用件数は、中心市街地の新規出店が容易な空き店舗数が相対で減少したとある。令和元年度で1件の実績となっているが、新規の店舗が1件出店したということなのか。

空き店舗の概念として、店舗は空いているけど、実際には人が住んでいるなど、空き店舗の母数としてカウントできる場合があるかと思うが、空き店舗の基準はどのようになっているのか。こういった母数の上で、1件の実績となったのかつながりを確認したい。

○三浦芳昌委員

外国人観光客の入込は、達成しているということで良いと感じた。宿泊業をやっているので、外国の方からメールが来て大変なところもあるが、実際に来てみると、しっかりと遠野の勉強をしている人が非常に多いと感じる。そのため、実際には苦勞することはあまりない。逆に市民が困惑される方がいる。コロナが収束すれば、インバウンドの観光客も戻って来るだろうから、何かを準備していかなければならないと思う。

台湾から法政大学に留学しているハンナさんが、1か月ほど遠野に来て研修していった。ハンナさんの話として、遠野は田園風景が素晴らしい、馬と連携した取組がという意見を残していた。

未達成の中で、中心市街地の観光客の入込が良くないということであるが、観光施設にはなく、遠野のある居酒屋のファンが遠野に泊まって、次の日に市内を観光するパターンが多いと感じる。夜に自分の好きな居酒屋でお酒を飲んで、市内を観光する新しい観光のコースを作っても良いかと思う。クーポンのPRもさせてもらったが、そういったものも活用すれば、未達成も良くなるかと思うがいかがか。

○濱田委員

市税等の収納率については、よい結果でご苦勞しての成果かと思う。実績に対して敬意を申し上げる。今後においてもご尽力をいただければと思う。

No123の河川清掃については、参加者数ではなく、実際にどれだけの面積をやっているのかが大事ではないか。猿ヶ石川が大きい部分であるが、防犯、防災、農業の病害虫の駆除など、幅広い意味などで参加してもらっている。高齢化となっているのは事実だが、そこだけでは済まない。地域をあげて取り組む必要があり、やり方を変えていくことも必要ではないか。市内一斉に8月の第1日曜日に実施しているが、8月前に刈ることができないのか。8月になると、草が非常に伸びていて、とても労力がかかる。1か月早く行えば、草も若くて作業効率も良いのではないかと思う。今後のお考えを伺いたい。

○中村産業部長

佐々木委員のご質問の空き店舗の利用件数について、空き店舗の数がいくつあるかについては、商店街や商工会でも調べて、ある程度把握しているところ。総合計画の中では、新規の出店数、開業数などを見比べながら、目標を各年2件としている。令和元年度は新規出店が1件であった。

令和2年度途中であるが、商工会との打ち合わせでは、3件の出店があると聞いている。

○佐々木浩章委員

空き店舗の相対的な減少というのが、新規出店に影響しているのかという点については。

○中村産業部長

新規に出店される方の多くは、商工会の創業塾でノウハウなどを勉強していただいている。その中で、その事業をやるのに、どれだけ適した空き店舗があるかということ調整するのだが、場所や規模などの条件の打ち合わせを進めていくと、母数が少ないと、希望している条件に適合する空き店舗が無く、なかなか出店できないという事例があるので、母数は影響があると思う。

外国人の入込については、法政大学のハンナさんから、馬の活用について話があったと思う。現在馬の里で、運営をより良くしていきたいということについて、理事懇談会を開いている。せっかく遠野が馬産地なのに、観光客がふらっと立ち寄っても馬が見られないという状況がある。遠くからでも馬が見られるというような、そういった点も含めて、遠野としての馬を利用した観光などを、馬の里の運営の検討の中に生かしていきたい。

クーポンについては、飲食やタクシーに使える、1,000円分のクーポンを8月1日から実施する予定だったが、コロナの拡大の影響で8月中旬ごろからやる考えである。こういった事業を冬場も実施して、冬場に向けて誘客を多くしたいと考えている。

○菊池経営管理担当部長

収納率についてコメントさせてもらう。副市長をチーフとして、市税等収納対策プロジェクトをやっている。公金収納に関係する課が連携して、収納率の向上に取り組んでいるところである。引き続き、幹部職員も訪問するなどして収納率向上に努めていきたい。

○奥寺環境整備部長

河川清掃について、実績の延長ということですが、資料を持ち合わせていないので、改めての機会にご回答したい。

河川清掃のやり方を変えることについて、行動日については、全体ではないが、青笹では、7月中旬に日程を変えてやったということもある。委員がおっしゃったように、草の丈が伸びると大変だということで早めたと聞いている。そういうことを行政区単位で決めてやっているという事例も聞いている。実際に、宮守地区は6月にやっているの、統一的なものもあるが、地区で決めてやっているところもあるので、そういった事例の情報も区長さんに提供しながら、自治会のやり方も変えながら進めたい。

○千葉和委員

河川清掃の日程については、以前は6月にやっていた時期もあるが、オオヨシキリが繁殖するから、その時期はずらしてくれと要望して、ずらしたということを知っている。そのように、場所によってはということもあると思うので、考慮していただければと思う。

○及川増徳会長

自然保護の観点から検討していくことになる。

○奥寺環境整備部長

ご意見として承りながら、検討していきたい。

○井手八重子委員

子牛市場の出荷頭数が未達成となっているが、高齢化して離農というのが一番の原因ではないかと思う。今年はコロナの影響で、子牛価格が低くなっている。9月から12月に出荷予定の方には助成金が出ると思うが、農協の方から畜産農家に助成金の案内ハガキが回っているが、市の助成の考えはあるか。

○松田希実委員

全体的なことだが、コロナウイルスの関係で未達成の指標もある。令和元年度は1月の途中からという短い期間の影響だったが、このままの目標を掲げると、令和2年度はかなりの指標が未達成になってしまうのではないかと心配している。せめて、コロナの影響が大きい指標だけでも見直してはどうかと思う。それぞれの指標の中で、コロナの中でもできたことは何か、という評価ができるのではないか。

観光業は切実な問題。生活がかかっている人も多い。子どもたちの学びにも影響が大きい。すぐに収まらず、今後もしばらく続くと言われているので、見直せる指標があればと思う。

○佐藤正市委員

健康診断関係で、徐々に検診率が上がっているが、まだまだという感想。質問したかった事項はまちづくり指標にはないので、健康福祉の運営審議会で質問したい。高齢者の施設入所の待機状態が続いている。20日に改めて質問するので予めお伝えする。

○中村産業部長

子牛価格の市の支援については、子牛価格が下がっているのは事実で、雫石の市場で50万円という値まで落ちていて、今は57万円くらいまで戻ってきたと聞いている。市としては直接的に下がった分を支援するのではなく、これからのウイズコロナに向けた取組で、消費も少しずつ回復していくということで、3号補正予算で、繁殖の雌牛の導入について支援をすることにしている。繁殖雌牛10万。雌馬は30万円としている。将来を見据えて基礎的な体力をつけてもらうことにしている。

○鈴木総務企画部長

まちづくり指標の全体について、基本的に指標の目標値は変えないということでやってきた。不測の事態ということで、目標値を変えるか、コロナの影響ということで、目標値の捉え方を変えるか、来年に向けて検討したい。

○菊池健康福祉部長

特定検診の受診率については、目標値に達しないということで、国の指針にもとづいて目標値を設定している。受診率向上のため、土日、夜間の開催、音声告知端末での呼びかけなど、担当課ではさまざま工夫を重ねており、徐々に目標値に近づきつつある。市民の行動変容につながるように、通知、封筒なども工夫をしている。自然と受診するような工夫をしていきたい。高齢者

の施設入所については8月20日に回答させていただく。

○及川増徳会長

ただいまの時刻、15時29分。終了予定時刻となりますが、会議を延長させていただきます。

○河野好宣委員

No81、商店街の街路灯LED化は、昨年度、目標8件に対して実績が3件ということで、いくらか進んでいるようだが、今年度は目標が10件となっている。LED化すれば電気料がかなり下がるということから促進するべきとは考えるが、商店街自体の体力もかなり厳しい状況かと思う。取組の方法をいろいろ考えなければと思っている。どのように考えているかを伺いたい。

No83の通行車両・歩行者数は、平成29年度の本庁舎の供用開始から比べて、どんどん数値が下がっている。以前お聞きした際には、天候が雨でといったような回答であったが、実態をどう捉えているか伺いたい。

○菊地セツ子委員

検診に携わっているが、三種類のガン検診に携わっている。皆さん自分のことのように危機感をもって検診に携わっていると感じている。結果は分からないが、健診率が上がればいいなと思っている。

子どもたちには、朝食を普段からしっかり食べましょうということで呼びかけている。体も心も丈夫なものをつくるのは、まずはしっかり朝食を食べましょうということ、運動としてやっぺいこうと思っている。しっかりと朝食を食べると学力アップにつながるという発言もあった。基本的な食生活、普通の生活を身に付けさせたいと思う。

遠野高校、緑峰高校が存続になった。少人数学級に移行して、学力アップを目指せば、存続の意義が高まるかと思う。

○千葉純子委員

地域PCR検査センターの設置については、遠野市の協力を感謝申し上げる。花巻に設置となったので、遠野市の皆さんには1時間弱の移動時間がかかることになる。医療圏の一つということで、遠野市は花巻や北上と一緒に中部医療圏に入る。参加を表明した医師の数も遠野市は5名、花巻氏は35名で、花巻市が中心になる。接触外来で断られた場合は、かかりつけ医との連携で、地域PCR検査センターで受け入れとなる。遠野市の広報にも掲載してもらったが、かかりつけ医に行くにしても、当番医に行くにしても、自分がコロナを疑った場合は、必ず電話をしてもらいたい。あと、そのためにもインフルエンザの予防接種は受けて、インフルエンザを除外して診察対応できるようにお願いしたい。

○中村産業部長

LED化については、商店街の体力もそのとおりである。令和2年度も2件が予定されているのみで、宮守駅前と一日市のみである。商工会、商店街の皆様と連携して、少しでもLED化をし、料金の低減にもつながるので、やるべき事業と思うので、関係者で集まって検討していきたい。

中心市街地の通行車数については、令和元年度は、その前に比べて市内のイベントもあって数値は上がっている。市役所のそばなどの一定のポイントで計測しており、純粋な歩行者数ということになる。今年度に関してはコロナの影響があって、遠野への誘客も減っている状況にある。3号補正で宿泊応援クーポン、飲食クーポン券を計上しているので、そのような事業を通じて、観光客の市内の回遊を促進したいと考えている。

○菊池健康福祉部長

菊地セツ子委員には、健診の受付等のお手伝いをいただきありがとうございます。がん検診については、前年度と比較して1.2%の減少。ここ数年は横ばいで、30%前半から微減傾向で推移し、大きな変化はない。本年度は、コロナの影響で受診者が減るかと思っている。感染予防対策については万全の対策を行っているが、コロナの影響での落ち込みは見られないかと思っている。がんの早期発見・早期治療のためにもこの検診は必要かと思っている。また、個々の示されている数値だけが評価の基準ではないと思っている。市の検診の他に、職場検診や医療機関での受診等についても、アンケート調査で分かり、それらを合計すると56.42%となっているので、半数を超えている。市民の皆様も意識していると感じている。

花巻遠野地域外来センターについては、かかりつけ医の予約が基本となるので、かかりつけ医に電話をして受診していただくことが基本なので、市民にしっかり周知を図っていきたい。また、

インフルエンザの予防接種についても大事となることから、勸奨を進めたい。

○伊藤教育部長

学力向上と合わせて、少人数学級であった。このことについては県にも統一要望ということで要望しているが、1クラス40人のところを35人や30人として、学力向上であるとか、進路希望に応じた対応が導入できるのではないかとということで、県に働きかけながら進めていることから、引き続きご支援をお願いしたい。

○千葉和委員

総合計画の策定に関わって、みんなで苦しみながら作った計画だったことを覚えている。まちづくり指標は計画の中のごく一部であって、数値化できないものが多くあったと記憶している。その中で、結構大事なものがあったなと思っているが、それらについては審議会では審議しなくてもいいのかと感じている。あるいは、審議会には出てこないが、市の内部でしっかり検証しているのであれば、その内容を報告していただければと思う。

○松田克之委員

中心市街地の状況について、82から84で未達成と出ている。今進められている旧三田屋の事業について、長い時間がかかると思うが、色々な影響が出てくると思うので、できれば、コロナの状況ではあるが、担当の方々には努力していただき、より促進していただければと思う

消防については、機械は充実している。ただ消防団員は概ね達成となっているが、女性にも入団してもらえるような方向付けがあればと思っている。

○臼井悦男委員

成果・評価の項目で、読んでも内容が入って来ないところがある。No4の公営住宅整備戸数について、令和元年度から管理を開始したと記載があるが、管理を開始したのが成果・評価では無いと思う。住宅が必要な方に住宅を提供したので、違う書き方があるのではないかと。

また、No38の高齢者体力アップ利用者数のところは、15行も書いてあるのが、よく読んでも分からない。最後に、「再構築を要している現状にある」という、成果でも評価でもないことが書いてある。

この資料が、総合計画審議会で審議済みということで、公開されていくことになるため、きちんと目を通してチェックする必要があるのではと感じた。

○鈴木総務企画部長

千葉委員の、これらの指標以外のものというご質問について、5年前にこの計画を作るとき、様々な分科会を開いた。様々なご意見をいただきながら、指標を選んでこれら130の指標にしたという経緯がある。この指標は、市民の皆様に分かりやすく説明するためのもの、そして、まだまだ考えるべきものがあるのはその通りであるが、わかりやすくということでこの指標を設定している。

後期の計画についても同じ手法をとっている。評価をするということについては、前期の検証作業を各部各課で行っており、それらについては、指標にはない部分も含めて行っている。総合計画の事業であるとか、経営改革の部分であるとか、財政の部分であるとか、それぞれの分野において振り返りを行っている。指標は、あくまでもわかりやすいものとしてお示ししているものであるが、これに関わらず、ご忌憚のない意見をいただければと思う。

○石田文化振興担当部長

要望のあった中心市街地について広く考えていきたい。子ども本の森について、事業を進めているところであり、来年7月のオープンを目指して進めている。完成した暁には、国内、国外を含めて、間違いなく遠野の集客の核になると考えている。その際には、周辺整備も必要となってくる。環境整備部や産業部とも連携し、点ではなく面の事業となるようにしていきたい。

○三松消防長

消防団員数については、遠野のみならず全国的に減少している。ただ、減少に歯止めをかけるための方策を考えている。消防団の再編なども考えながら消防団員と意見を交わし、確保に努めているところである。

しかし、4年に1回、消防団の役員が大きく変わる時期があり、その時に団員が減少する傾向がある。3年後に減少数が少なくなるように、幹部とも意見交換をしながら団員の確保に努めたい。

○奥寺環境整備部長

白井委員からご指摘のあった、成果・評価の表現については、改めて表現を修正したい。

○菊池健康福祉部長

同じく、高齢者体力アップ利用者数について、15行にも及ぶ成果・評価ということで、たしかに、専門用語で解説をしたくなるということで、長く書いてしまったと反省している。指標の担当課と協議しながら、修正できるものは修正を検討していきたい。

○鈴木総務企画部長

白井委員から、全体的な表現の見直しをいうご指摘をいただきましたので、全体的な部分をもう一度見直しをさせていただく。

○新里佳子副会長

No43, No44について、福祉施設から地域生活への移行や一般就労というところが未達成となっている。色々経済的事情や会社側の事情もあったりするのかなと思うが、もう少し何かできることが無いかと思う。また、福祉施設からということだけでなく、在宅の方々の就労というところがあっても良いのではないかなと思う。

No92の定住者世帯数について、テレワークなども可能ということで、新型コロナウイルスのピンチをチャンスに変えるという意味でも、千葉和委員の提供資料にもあるように、首都圏にいらなくても仕事ができるということをPRし、定住者を増やしていければと思う。

○佐々木弘志委員

No77の製造品出荷額について、国の統計とあまりにも乖離が大きすぎるので、目標値の根拠は何なのかなと感じた。これは回答はしない。

それと、審議会にはすぐわない発言かもしれないが、市民や事業所から市に出される要望があると思うが、最初は速やかに現地を確認してくれるが、その後、半年も放置されるといったことが結構多いと聞いている。そういったことにはスピーディーな対応をお願いしたい。50年前に、千葉県の松戸市がすぐやる課を作り、現在では、全国で300の自治体が行っている。市民の意見に対してレスポンスよくやるのが大事かなと思う。将来に向けて検討していただければと思う。

○及川増徳会長

私からも質問させていただく。No98の中学校標準学力検査偏差値。指標は達成となっているが、目標値が48.6と全国平均に届いていない。目標値が低すぎるのではないかな。偏差値50ぐらいを目標として、年度ごとの目標を持ってはどうかと思う。

もう一点、KPIの実績で、45歳未満の認定新規就農者がいる。認定した就業者が、実際にはどのような経営状態にあるのか、就農して良かったとなっているのか、厳しい経営状況にあるのか、様子を聞かせてもらいたい。

○菊池健康福祉部長

新里委員の質問にあった、障がい者の一般就労への移行者数の指標について、令和元年度の実績が0人となっている。理由として、平成28年度は6人、平成29年度は7人と多くの方が一般就労へ移行していたが、現在の施設入所者の中には、一般就労へ移行できそうな方が少ないというのが現状である。

在宅からもというお話であり、その通りだと思う。市では自立支援部会というものを設置しているが、その中では在宅の障がい者の方の一般就労に結びつけるといった取組も行っており、昨年度は、8人が一般就労していることから、次期計画に向けて検討したい。

○鈴木総務企画部長

佐々木委員からのご意見で、個別具体的な事案についての発言はなかったが、市のレスポンスが悪いということが趣旨であると思われることから、全職員がスピード、タイミングを見ながら、課題に真摯に取り組んでいきたいと思う。

○中村産業部長

新里委員からあった、定住者世帯数について、新型コロナウイルスの関係でワーケーションなども取り入れてはどうかということであるが、で・くらす遠野市民制度の中で移住者数が伸びてこない状況があり、先日、ワーキンググループで今後の計画づくりについて話し合ったところである。新型コロナということで、これまでにない新しい生活様式というのが広がってきていることから、このピンチを少しでもチャンスにということで、地方への動きを加速させるようなこと

を、で・くらす遠野のワーキングで検討していきたい。

佐々木委員からご指摘のあったNo77の製造品出荷額については、平成26年度の実績を基に設定して、そこからゆるやかな増加としたところですが、実際にはアベノミクスの効果が働き、企業の経営状況がかなり良く、実績が目標値をかなり上回る状況になっている。世界経済全体のマクロな影響もありますが、より正確な目標値を設定したいと思う。

○伊藤教育部長

学力向上のことについての質問をいただいた。全国目標の高い目標設定をしてはどうかというご意見であったが、そういった考え方もあると思う。ただ、学力は一足飛びに上がるという訳には行かない面もある。いただいた意見を基に、後期計画の目標値について検討していく。

○中村産業部長

新規就農者の様子については、青年等就農計画を事前に作ってもらい、その計画に基づいて次世代投資資金等の制度で支援している。そのような国の資金も利用してもらいながら、市やJA花巻の部会の協力ももらっている。先月には畜産農家2軒とホップ農家2軒の計画審査を行っている。これらの計画を出した方々については、特段大きな問題は起きていないと聞いている。ただ、ホップ生産者については、ホップだけだと8月中旬の収穫となるため、それだけだと大変だということから、他の作物も生産する計画であったが、うまくいかず、別な作物に変更したといったことはあったが、大きな問題にはなっていない。

○及川増徳会長

ありがとうございました。進行が悪く、予定時間を大幅に超過してしまいました。お許しをいただきたいと思います。

最後に、これだけは発言したいということがあれば、発言いただきたいと思います。

無ければ、これで審議を終了とします。

7 その他

○及川増徳会長

その他に入ります。

発言のある委員がおりましたらご説明をお願いします。

○千葉和委員

梶原町の取組事例について千葉和委員より紹介

○及川増徳会長

本日は24名の委員の出席ということで、できるだけ皆さんからの発言をと思い進めると、時間がかかる部分もある。千葉和委員からも分科会方式についての発言もあったが、事務局でも分科会の開催を考えているようなので、多くの皆さんの意見が反映されることを期待する。

その他委員から発言がなければ、事務局から願います。

○新田政策担当課長

次回の審議会日程について説明いたします。9月18日（金）10時からの開催を予定しております。正式な案内はおって通知させていただく。

なお、今後の進め方については、先ほど千葉和委員からもあったように、分科会方式で進める部分もあることから、よろしく願います。

8 閉会

○鈴木総務企画部長

及川会長、長時間の進行ありがとうございました。以上で、第2回遠野市総合計画審議会を閉会する。お疲れ様でした。